

TEENS Libra

ティーンズ ライブラ 2025年春号 (No.41)

新着図書

図書館HPから
すべての新刊をチェックできます→

① 図書館HPを開く

② **新着一覧** をクリック



▶新刊ピックアップ!



青春サプリ。 このまま終わりにたくない
心が元気になる、5つの部活ストーリー

オザワ部長／文 田中夕子／文 日比野恭三／文 近江屋一郎／文
菊地高弘／文 くじょう／絵 ポプラ社 2025.1 (375)

この本はシリーズものの短編ショートストーリーで、ご存じの方も多と思います。今回はいろいろな部活の実話ストーリーがピックアップされています。集団で何かある目的のために行動することは、彼ら自身にいろいろなことを教えてくれると思いました。その思い出が、キラキラした青春の1ページになるんですね。さっと読めます。

読まれる覚悟

桜庭一樹／著 筑摩書房 2025.1 (901/サカ)

小説家にとって出版まで漕ぎつけたということは、自分の作品を世に出すことができたという喜びの一方で、今後読者にどう受け取られ、どう批評されるかという不安の間で、心は揺れ動いているものと想像します。

この本は作品をリリースしている時の小説家本人が、自身の心の内側を語っているものです。小説家の気持ちというものを垣間見てみるのも、面白いのではないのでしょうか。



連載コラム
本好きさんになろう!

今皆さんは、楽しいこと、苦しいこと、悩んでいること、いろいろな気持ちに向き合っていると思えます。自分の周りの世界は、皆さんそれぞれの見え方をしていると思いますが、いろいろな本に触れることで、今の自分をちょっと離れた場所から見つめてみたら、これからの生き方、考え方のヒントなど、いろいろと気付くことが出てくるかもしれません。そんな想いから、今号の特集「今の自分、これからの自分について考えてみよう。」というテーマで本を選んでみました。

「ティーンズライブラ」が、何か皆さんのお役にたてばよいと思っておりますので、これからもどうぞよろしくお願いたします。(TI)

次号
(2025年夏号)
6月1日
発行予定です



「今の自分」 「これからの自分」 について考えてみよう

- 今の自分ってどう思う？
- 自分はこれからどうしたい？
- 自分ってどういうふうになりたいの？
- これからどう生きていくか？
- 本をきっかけに一度考えてみるのもいいかも！

さみしい夜にはペンを持て

古賀史健／著 ならの／絵

ポプラ社 2023.7 (159.7/コ)

魅力的なタイトルに惹かれました。人生最大の謎は「自分」。その謎を解くために、ひとりの時間にとことん「自分」と向き合い、対話する大切さが小説仕立てで紹介されます。そのための有効な手段が「書く」こと。同じ発信でも「話す」と「書く」はどう違うのか、嘘のない文章にするにはどうしたらよいかなど、具体的な方法が示されます。自分のダンジョン（迷宮）を冒険していたら、退屈している暇なんてないのかもしれないね。

らしく生きよと猫は言う

ジェイミー・シェルマン／絵

マイケルオマラ出版社／文

角田光代／訳 東京書店 2020.5 (645.7/シ)

人生で大切なことは大抵猫が教えてくれます。そんなバカな……と思われるかもしれませんが、本当なんです。猫ののびのびとした生き方や考え方をすぐにはマネできなくても、この本を読むだけで少し顔が緩むような、心が軽くなるような感覚があるはず！
頑張る姿はもちろん素敵だけど、自分らしくのびのびする姿も素敵なんです。新しい環境でくたびれちゃう時、猫の言葉を思い出してくださいね。

自分では気づかない、ココロの盲点

本当の自分を知る練習問題80

池谷裕二／著 講談社 2016.1 (141.51/イ)

問) デパートのジャム試食コーナー。どちらのブースの売上げが高かったでしょう？

- ① 6種類のジャムが並んだコーナー
- ② 24種類のジャムが並んだコーナー

答えは①。なんと7倍の差があったとか。選択肢過多効果という認知バイアスが働いています。
認知バイアスとは思考や判断のクセともいえる偏りやフィルターのこと。この本では、認知バイアスの専門知識をクイズ形式で楽しむことができます。クイズを解くごとに、これまで当たり前と思っていた感覚や考え方が認知バイアスとして説明できることに驚きます。他人のクセは目についても自分のクセは気づかない。これも認知バイアスの特徴だそうです。
さまざまな認知バイアスを知っていることで、誰かに優しくなれたり、避けられるトラブルがあるかもしれません。昨日とは違う自分を探るとき、心のクセにもちょっと注目してみてください。

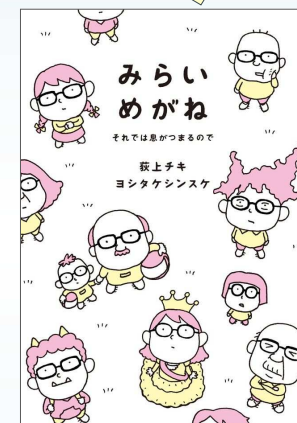
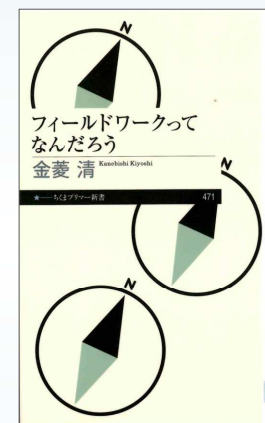
みらいめがね

それでは息が詰まるので

荻上チキ／著 ヨシタケシンスケ／著

暮しの手帖社 2019.5 (914.6/チ)

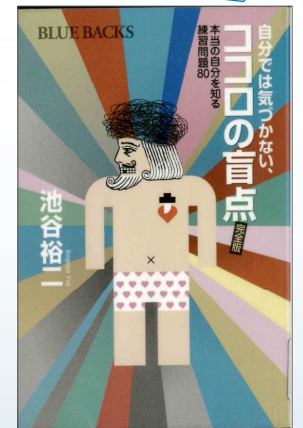
気鋭の評論家のエッセイに、人気イラストレーターがコメント付きイラストを添えます。身近なテーマについての二人の視点を通して、人はそれぞれ自分に心地よいめがねを通して世界を見ていること、世の中のいろんなめがねを通して世界を知ることのおもしろさに気づかされます。比喩としての「めがね」について考察したヨシタケさんのあとがきマンガも味わい深いです。



人に話を聞くことが苦手な人にこそフィールドワークは向いている、という言葉から本著は始まります。しかしコミュニケーション力が高まり、話すスキルが上がるという本ではありません。インタビューをする際に自身の聞きたい質問だけをするのではなく、わくわくして面白いと思う余白（話の遊びや深さ）を掘り下げて会話をし、研究や調査に繋げていくことを目的としています。情報や知識を得て、それを自分の目的達成のために活かすことは、どんな仕事にも必要な力なのではないでしょうか。

フィールドワークってなんだろう

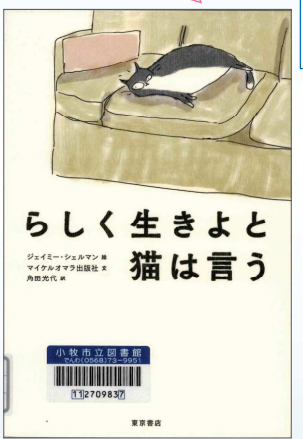
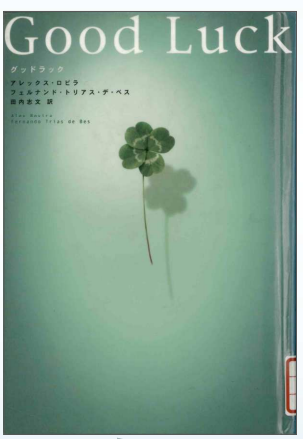
金菱清／著 筑摩書房 2024.10 (361)



「生きること」「死ぬこと」と「知っているということ」「知らないということ」を大きなテーマとして、これらが人間の人生にどう関わっているのか？この本では面白い例えで語られています。自分が自分らしくこれからの人生を歩んでいくために、ふと立ち止まってこんなことを考えてみるのもいいのではないのでしょうか？皆さん是非読んでみてください。

生きると死ぬ

ブリジット・ラベ／著 ミシェル・ピュエシュ／著 高橋啓／訳 日本放送出版協会 2004.4 (114)



幸運は偶然訪れるものではなく、自分で作り出すもの。待っているだけでは、運は飛び込んでこないということを優しく教えてくれる物語です。約20年前に出版された本ですが、おとぎ話を紡ぐような文章は読みやすく、今も違和感なく読む人の心にじんわりと響きます。この春、新しい一歩を踏み出すあなたの背中を押し、まずはどう行動しどんな努力をすべきなのかを教えてください。一冊です。

グッドラック

アレックス・ロピラ／著 フェルナンド・トリアス・デ・ベス／著 田内志文／訳 ポプラ社 2004.6 (963/07)



学生の様々な悩みや問題に直面している兄弟に対し、古本屋の店主が本を通して色々な考えを伝えてくれる物語です。店主が紹介する本はどれも実在しており、なかには図書館で読める本もあります。各章ごとに分けられたテーマは、多くの方が一度は考えたことがありそうなものばかりです。ひとつの物事に対して、見方を変えてみることの大切さを教えてください。

未来の自分に出会える古書店

齋藤孝／著 文藝春秋 2020.8. (159.7/サ)

「今の自分」「これからの自分」
じっくり考えてみよう



本の予約ができる
おすすりブックリスト

紹介作品(50音順)

- 生きると死ぬ
- グッドラック
- さみしい夜にはペンを持て
- 自分では気づかない、ココロの盲点
- 青春サブリ。
- フィールドワークってなんだろう
- 未来の自分に出会える古書店
- みらいめがね
- 読まれる覚悟
- らしく生きよと猫は言う

2025 春